

授業名： 社会保障論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
佐藤 篤	有料老人ホーム 3年勤務	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 社会保障の歴史的展開を捉え、わが国の社会保障の理念、内容、仕組みについて理解し、社会保障とは何かについて説明できる。また、社会保障の重要性を理解し、介護福祉士の専門知識として活用できる。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①わが国の社会保障の理念、内容、仕組みについて理解できる。 ②介護保険制度、生活保護、公的年金制度等の内容を理解し、社会保障の重要性を説明できる。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	わが国の社会保障制度の概要	社会保障制度の内容 変化するライフサイクル				
2	社会保障制度の変遷	戦前・戦後の社会保障 少子高齢社会にふさわしい社会保障				
3	わが国の社会保障を取り巻く環境	社会構造の変化に伴う社会保障 社会保障構造改革				
4	社会福祉基礎構造改革	社会福祉基礎構造改革の基本的理念 利用者の立場に立った社会福祉制度の確立				
5	生活保護制度	生活保護の仕組み 最低生活費の保証				
6	介護保険制度①	介護保険創設のねらい 介護保険法の目的と基本的理念				
7	介護保険制度②	介護保険制度の概要 介護給付と予防給付				
8	公的年金制度①	公的年金制度体系と役割 公的年金制度の仕組みと給付				
9	公的年金制度②	年金制度改正の経緯 年金改正の基本的考え方				
10	老人保健制度	高齢者保健福祉施策の方向 高齢者の生きがいと環境づくり				
11	保健医療	医療需要の変化 医療保険制度の概要				
12	障害者福祉施策①	障害者に対する年金・手当 障害者に対する年金・手当制度の理解				
13	障害者福祉施策②	障害者と雇用・就労 障害者福祉における就労支援システム				
14	児童に関する社会保障	児童に関する手当 母子保健対策				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	受講態度	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 福祉社会学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2	
佐藤 篤	有料老人ホーム 3年勤務	佐藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	水 2	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 ライフサイクルに起因する諸問題に対応すべき社会福祉や社会政策について、その現状や課題を学びます。					【受講して得られる力】 生活支援技術 コミュニケーションスキル		
【学習目標(到達目標)】 ①社会問題に関心を持ち、その諸要因について考察できる。 ②社会問題と社会福祉の関連性について理解し、社会福祉の支援について学ぶ。 ③社会福祉の問題を社会学の視点から考察できる。					論理的思考力 知識・理解 コミュニケーションスキル 前に踏み出す力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション		現代の社会福祉とは(福祉と社会の関係性) 福祉を取り巻く社会環境について学ぶ。				
2	社会福祉と社会学		学問としても社会福祉 社会福祉学と社会学の概念枠組みについて理解できる。				
3	社会と家族①		高齢者介護の現状と社会福祉 老人福祉問題の変遷から現状について学ぶ。				
4	社会と家族②		日本における社会と家族について学ぶ 社会と家族について事例を通して考察する。				
5	高齢社会と介護		高齢者介護の現状と社会福祉 老人福祉問題の変遷から現状について学ぶ。				
6	福祉先進国の福祉		スウェーデンにおける福祉社会 制度的概念、スウェーデンの福祉について学びます。				
7	地方分権		都市と地域 都市部・農村部における社会福祉について学ぶ。				
8	今日の社会福祉の捉え方		福祉ミックス論 市場と民間・インフォーマルな社会福祉について理解できる。				
9	女性問題と社会福祉		女性の社会進出とその背景 社会的ジェンダー問題について学ぶ。				
10	児童問題と社会福祉		児童を取り巻く社会環境と社会福祉 児童を取り巻く諸問題と権利擁護について理解できる				
11	社会問題と社会福祉①		社会問題と社会福祉 社会問題を社会福祉学的視点で捉え、その起因について考察する				
12	社会問題と社会福祉②		社会問題と社会福祉 社会問題を社会福祉学的視点で捉え、その起因について考察する				
13	社会問題と社会福祉③		社会問題と社会福祉 社会福祉的視点、社会学的視点で捉えた要因について比較・検討する				
14	社会問題と社会福祉④		社会問題と社会福祉 社会福祉的視点、社会学的視点で捉えた要因について比較・検討する				
15	まとめ		福祉社会学のまとめ				
期末試験			評価方法	筆記試験	60%		
				受講態度	40%		
【教科書】担当教員が指示します							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
知野 吉和	特別養護老人ホーム 8年勤務	知野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 1	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 社会福祉専門職者として、介護を必要とする方にかかわる態度・姿勢のあり方について理解します。そのために、バイステック7原則を中心に授業をすすめていきます。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 バイステック7原則の理解・修得を目標とし、「自律性」と「自己覚知」をキーワードに「人間関係とコミュニケーション」について学んでいきます。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	オリエンテーション		介護福祉士とコミュニケーションについて シラバスについて理解します。			
2	専門対人援助関係の形成①		専門性の構造とその要素について 「福祉倫理」「専門知識」「専門技術」について理解します。			
3	専門対人援助関係の形成②		専門職としての主体性について 自己覚知の一環として、福祉職としての適性を理解します。			
4	社会福祉援助活動の基本的枠組み		社会福祉援助技術について 社会福祉援助技術の体系と種類について理解します。			
5	直接援助技術①		ケースワークについて ケースワークの沿革と基礎理論について理解します。			
6	直接援助技術②		ケースワークについて バイステックの7原則について理解します。			
7	直接援助技術③		ケースワークについて バイステックの7原則について理解します。			
8	直接援助技術④		ケースワークについて ケースワークの展開過程について理解します。			
9	直接援助技術⑤		ケースワークについて ケースワークの展開過程について理解します。			
10	直接援助技術⑥		グループワークについて グループワークの沿革と基礎理論について理解します。			
11	直接援助技術⑦		グループワークについて グループワークの基本原則と構造について理解します。			
12	直接援助技術⑧		グループワークについて グループワークの展開過程について理解します。			
13	直接援助技術⑨		グループワークについて グループワークの展開過程について理解します。			
14	直接援助技術⑩		記録について 記録・スーパービジョンについて理解します。			
15	まとめ					
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%	
				筆記試験	40%	
【教科書】担当教員より指示します						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名: ケアマネジメント論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
知野 吉和	特別養護老人ホーム 8年勤務	知野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 ケアマネジメントの全体像について説明できるようになるために、①ケアマネジメントの理念②目的③ケアマネジャーについて学びます。福祉専門職・他の専門職との連携の必要性と現状について理解し、ケアマネジメントにおける介護福祉士の役割についても説明できるようになります。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ケアマネジメントの基礎理論について学び、演習をとおしてアセスメントについて理解できます。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	ケアマネジメント論について	ケアマネジメント論を学ぶ意義、目的についてシラバスの概要について理解できます。				
2	ケアマネジメントの概要について	ケアマネジメントの起こり、必要性、目的と焦点についてケアマネジメントの概要について理解できます。				
3	ケアマネジメントの構造について	ケアマネジメントの定義と構成要素についてケアマネジメントの構造について理解できます。				
4	ケアマネジメントの過程について	入口から監視及びフォローアップまでの一連の過程についてケアマネジメントの過程について理解できます。				
5	生活ニーズと社会資源①	ケアマネジャーについてケアマネジャーとして求められる姿勢、知識、技術について学びます。				
6	生活ニーズと社会資源②	社会資源について社会資源の種類と内容について理解できます。				
7	生活ニーズと社会資源③	ICFについて介護計画作成の基本について理解できます。				
8	アセスメント①	アセスメントの目的、段階、情報収集、具体的な項目についてアセスメントについて理解できます。				
9	アセスメント②	アセスメントの実際について事例を通してアセスメントの実際について理解できます。				
10	介護サービスの概要 (介護保険のサービスの種類)	介護保険のサービスの種類について介護保険制度の下における介護について理解できます。				
11	介護サービスの概要 (組織・団体の役割)	介護保険制度における組織・団体の役割について国・都道府県・市町村の役割について学びます。				
12	介護サービスの概要 (介護サービス提供の場の特性)	生活の特性について地域(居宅・施設)の特性について学びます。				
13	介護福祉士とケアマネジメント①	ケアプランと介護計画の関連性と、多職種との連携の必要性についてケアマネジメントにおける介護福祉士の役割と機能を理解できます。				
14	介護福祉士とケアマネジメント①	ケアプランと介護計画の関連性と、多職種との連携の必要性についてケアマネジメントにおける介護福祉士の役割と機能を説明できます。				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】ケアマネジャー最強のアセスメント力養成講座						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関するの質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 看取りのケアとグリーフケア

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
知野 吉和	特別養護老人ホーム 8年勤務	知野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 看取りの場は、看取るものにとっても看取られるものにも生老病死の意味を確かめ、限りあるいのちをみつめる機会でもある。介護福祉士の看取りの介護を事例をとおして学ぶとともに、看取りの作法と、死別後のグリーフケアを学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ・終末期にある人の身体的・精神的・社会的苦痛について理解する。 ・家族も介護の対象として捕らえることができる。 ・死生観をみつめ直す。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 生活支援技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	看取りのケアを学ぶ意義	看取りとは、日本の看取り 日本の看取りの文化を知る				
2	終末期〈ターミナル期〉とは	高齢者の終末期・急性変化で迎える終末期				
3	終末期にある人の援助と介護の役割(1)	コミュニケーション・苦痛の緩和				
4	終末期にある人の援助と介護の役割(2)	生活の支援				
5	家族の援助と介護の役割	介護者の負担軽減・精神的サポート				
6	チームケアと介護の役割	専門性を持った多職種で組むチーム				
7	在宅における看取りの援助と介護の役割	家で迎える終末期と看取り				
8	事例検討〈1〉	最期は家でと望みながら家族に受け入れられなかった事例				
9	事例検討〈2〉	最期の5日間を病院で過ごすことを選んだ一人住まいの高齢者の事例				
10	事例検討〈3〉	家族から退院を受け入れられずに生きることを放棄した事例				
11	事例検討〈4〉	住み慣れた私の家(施設)で家族に看取られた事例				
12	看取りの心得と作法	日本の看取りの心得と作法・危篤と死後の心得と作法・死者に対する心得と作法				
13	グリーフケア	遺された家族の悲嘆へのケア				
14	葬送儀礼	死後の処置時の儀礼的行為・宗教別儀礼の心得と作法・死にともなう手続き				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】担当教員が指示します						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 居住環境学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2	
松井 壽則		一般	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
				【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 住まいが備えている役割、求められる機能を概括し住まいの中の生活を分解し住まいに反映させる様々な行為・行動から空間の必要性と住まい方について講義と演習を行なう。授業の進行を大きく3分割する。始めに、自身の生活を見定め生活の仕組みを理解する。次に健康的な生活を送るための環境要因について考える。最後に安全・安心を視点に入れ、住環境に対するバリアフリーデザインを確認する。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 住まいの基本的事項を踏まえ、安全、安心、快適、健康をキーワードとした住まいを考える。バリアフリー環境に関する概念の把握と身体的機能の低下および障害を目的とした住空間の改造計画を考える。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 生活支援技術		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	ガイダンス		住まいの捉え方 各人の捉え方を聞く。				
2	「すまいと住生活行為」		住まいの変遷、役割、生活構造、生活行為 機能分化の流れと現在求められている機能・役割。				
3	「住生活行為と生活空間」		タイムテーブル、行為の抽出 自身の生活を分析する。動作を抽出する。				
4	「住生活行為と生活空間」		タイムテーブル、行為の抽出 動作をまとめ行為をつくる。				
5	「生活空間の構成」		ライフサイクル、起居様式				
6	「健康とすまい」(1)		室内気候、日照・日射				
7	「健康とすまい」(2)		採光、照明、色彩				
8	「住宅の性能(安全性)」		不慮の事故(家庭内事故)				
9	「バリア・フリーとは」		障壁、障害の把握				
10	「バリア・フリーとは」		身の回りのバリア、公共空間のバリア				
11	「バリア・フリー住宅」		高齢化対応住宅(長寿社会対応住宅設計指針をもとに)				
12	「バリア・フリー住宅」		高齢化対応住宅、障害者住宅の事例				
13	「住宅改修・改造」		住宅改修・改造の考え方とその事例				
14	「ユニバーサルデザインとバリアフリーデザイン」		BFの流れとUDの理解				
15	まとめ						
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%		
				筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名： 機能の維持及び回復

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
遠藤 敏裕	病院 26年勤務	佐藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 3	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 介護福祉士は常に自立支援を考え援助を行います。この科目ではリハビリテーション医療の基本的な知識・技術を、学びます。自立支援の観点から、機能を維持及び回復の具体的な方法を演習を中心に展開します。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 介護福祉士ができる日常生活援助としての、機能維持及び回復の方法を理解できる。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	「機能維持及び回復」について		「機能維持及び回復」を学ぶ意義を理解する。 人体の構造を理解し残存能力とは何かを知る			
2	「機能維持及び回復」と介護福祉士		介護福祉士とリハビリテーション専門職の連携について理解する。 チームワークの原点に焦点をあてて、それぞれの役割について理解する			
3	機能の評価について(演習)		介護福祉士ができる機能の評価について知る。 関節可動域の検査等の評価について学ぶ。			
4	運動療法①(演習)		介護福祉士ができる運動療法を知る。 ROM訓練、関節可動域テストとストレッチの実技を行う			
5	運動療法②(演習)		介護福祉士ができる運動療法を知る。 筋力増強訓練、筋力強化・持久力増強の理論と実際			
6	運動療法③(演習)		介護福祉士ができるバランス運動療法を学ぶ。 バランス訓練などの実技を行う			
7	物理療法①		物理療法について理解できる。 物理療法の目的・各種療法について学ぶ。			
8	物理療法②(演習)		物理療法の実際を学ぶ。 温熱・寒冷療法を体験し学ぶ。			
9	物理療法③(演習)		物理療法の実際を学ぶ。 電気・光線療法を体験し学ぶ。			
10	慢性呼吸器疾患に対して		慢性呼吸器疾患に対する理学療法の実際を学ぶ。 慢性呼吸器疾患に対する呼吸法・体位・肺療法			
11	日常生活活動訓練①(演習)		介護福祉士のできる日常生活動作訓練を学ぶ。 「立つ」・「座る」の動作訓練、バランス訓練、介護のポイント			
12	日常生活活動訓練②(演習)		介護福祉士のできる日常生活動作訓練を学ぶ。 「起きる」の動作訓練、介護のポイント			
13	日常生活活動訓練③(演習)		介護福祉士のできる日常生活動作訓練を学ぶ。 レクリエーションを取り入れた動作訓練、バランス訓練			
14	回復期のリハビリテーション		回復期のリハビリテーションの方法について知る。 回復期の理学療法について説明できる			
15	まとめ					
期末試験	評価方法		授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関するの質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 介護福祉研究において、最も必要な問題意識を高める方法を習得するために、問題を整理しまとめる力を身につけ、あわせて介護に関する研究を社会的、心理的、身体的な側面から整理できる方法を身につける。さらに、問題を全体的に考察する方法を習得する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ① 介護福祉士に必要な研究方法を理解できる。 ② 実習等の事例から介護を必要とする方の自律に向けた援助方法を評価・考察より理解できる。 ③ 知識・理論・実践を融合させていくことができる。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	介護福祉研究方法の理解		介護福祉研究の意義 研究すること 問題意識の発掘 レポートの書き方 感想文と研究論文の違い			
2	研究との出会い①		日常生活からの気づきを形にする レポートの書き方 感想文と研究論文の違い			
3	研究との出会い②		自分と語り合う 書くということ 共同研究 文献研究			
4	研究との出会い③		プレゼンテーションの準備 研究の出発点 気づき 関心 疑問をもつ			
5	研究計画書をつくってみよう①		研究テーマを考える アイデアを形にする 仮説 アウトラインを描く マインドマップ			
6	研究計画書をつくってみよう②		研究計画書作成 研究方法			
7	研究計画書をつくってみよう③		研究テーマ発表 振り返り			
8	事例研究①		自分でテーマを決めて書いてみよう 研究計画書(研究過程)			
9	事例研究②		論文筆記のルール 用語の定義 注 注記 引用文献 参考文献			
10	事例検討①		事例① 個人ワーク グループワーク 振り返り			
11	事例検討②		事例② 意見交換			
12	事例研究③		事例③ 個人ワーク グループワーク 振り返り			
13	事例研究④		事例研究 ロールプレイ 個人ワーク グループワーク 振り返り			
14	まとめ①		研究発表			
15	まとめ②		研究発表			
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%	
				筆記試験	40%	
【教科書】担当教員が指示します						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 内部障害者の介護過程

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
富田 きよ子	病院 43年勤務	富田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 内部障害者における医療領域の理解と、医療機器の取り扱い方法を学習する。日常生活において内部障害をもつ人の生活を理解し、どのように介護福祉士が介護過程を展開していく必要があるのかを考え、実践できる知識、技術を習得する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 1. 内部障害者の特性に応じた介護の知識や具体的な介護の援助技術の習得、及び医療との具体的な連携方法を理解 2. 内部障害をもった方の生活を理解し、介護福祉士の視点を持って介護過程を展開できる					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	生活習慣病者の介護	生活習慣病の介護を理解できる 生活習慣病による障害の原因症状, 生活の諸問題を学ぶ				
2	心臓機能障害者の介護	心臓機能障害者の介護を理解できる 心臓機能障害者による障害の原因, 症状, 主な症状, 生活の諸問題を学ぶ				
3	〃	心臓機能障害者の介護を理解できる 心臓機能障害者の介護を理解できる生活場面での介護技術を学ぶ(ペースメーカー装着者等)				
4	〃	心臓機能障害者の介護を理解できる 心臓機能障害者のアセスメントを知る(健康状態の観察方法等)				
5	呼吸機能障害者の介護	呼吸機能障害者の介護を理解する 呼吸機能障害者による障害の原因, 症状, 主な症状, 生活の諸問題を学ぶ				
6	〃	呼吸機能障害者の介護を理解する 呼吸機能障害者の生活を理解する(吸引法)について				
7	腎機能障害者の介護	腎機能障害者の介護を理解する 腎機能障害による障害の原因、症状、主な症状、生活の諸問題を学ぶ				
8	〃	腎機能障害者の介護を理解する 腎機能障害者の生活を理解する				
9	膀胱、直腸機能障害者の介護	膀胱・直腸機能障害者の介護を理解する 膀胱・直腸機能障害による障害の原因、症状、主な症状、生活の諸問題を学ぶ				
10	〃	膀胱・直腸機能障害者の介護を理解する 膀胱・直腸機能障害者の生活を理解する				
11	難病のある人の介護	難病のある人の介護を理解する				
12	〃	難病のある人の生活を理解する				
13	内部障害をもつ人の介護過程	内部障害者の介護過程が展開できる				
14	〃	〃				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】担当教員より指示します						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 視覚・聴覚障害者の介護過程

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 1	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 高齢者施設の実務経験で得たのは、利用者のニーズに応じた生活の理解、介護福祉士の視点の重要性でした。経験した事例を授業に反映し、個々に応じた介護過程の展開方法について学習します。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①視覚・聴覚障害を起す原因となる疾患を理解する。 ②視覚・聴覚障害が身体的・精神的影響を与えるかを理解し個々に応じた介護技術を学ぶ。 ③視覚・聴覚障害をもった方の生活を理解し、介護福祉士の視点を持って介護過程を展開できる。					生活支援技術 コミュニケーションスキル 論理的思考力 知識・理解 コミュニケーションスキル 前に踏み出す力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	視覚・聴覚の基礎知識を理解する 視覚・聴覚障害者の介護過程を学ぶ意義、目的を理解できる				
2	視覚障害者の介護	視覚障害の関連医学領域の基礎知識を理解する 視覚障害者の主な眼疾患、眼の構造と機能について学ぶ				
3	視覚障害者の介護	視覚障害者の生活を理解する 視覚障害を体験し、介護の留意点について学ぶ				
4	視覚障害者の介護 (演習)	視覚障害者の生活の理解 視覚障害者体験：白杖使用の方法を学ぶ				
5	視覚障害者の介護 (演習)	視覚障害者の生活の理解 視覚障害者体験：食事介助から障害者の理解と介護の方法を学ぶ				
6	視覚障害者の介護	先天性・後天性の視覚障害者の心理的プロセスを理解する 中途視覚障害者の心理的理解について学ぶ				
7	視覚障害者の介護	視覚障害者の介護過程について学ぶ				
8	聴覚障害者の介護	聴覚障害と関連医学領域の基礎知識、耳の構造と機能について理解する 聴覚障害者のコミュニケーション手段について学ぶ				
9	聴覚障害者の介護	聴覚障害者の生活を理解する 聴覚障害者の生活の実施を学ぶ				
10	言語障害者の介護	言語障害と関連医学領域の基礎知識、音声器官の構造と機能について理解する 失語症の理解とコミュニケーションについて学ぶ				
11	言語障害者の介護	言語障害者の生活を理解する 言語障害者の生活の実施について学ぶ				
12	視覚・聴覚障害者の介護過程	コミュニケーションツールについて調べ、まとめる				
13	視覚・聴覚障害者の介護過程	視覚・聴覚障害者の介護過程が展開できる				
14	視覚・聴覚障害者の介護過程	視覚・聴覚障害者の介護過程が展開できる				
15	まとめ	視覚・聴覚障害者の介護過程のまとめ				
期末試験		評価方法	筆記試験	60%		
			受講態度	40%		
【教科書】新・介護福祉士養成講座13 障害の理解						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 総合演習Ⅲ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 実習Ⅰを振り返り、学校生活で学んだ知識・技術・態度・倫理を具体的かつ実際に理解できるようになり、基礎技術を応用した実践的な介護福祉援助活動を学び、介護過程のアセスメントを実施する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ・施設生活者の生活を支える介護過程についてアセスメントを実施し、生活支援の基礎を学ぶ ・福祉専門職としての自己の課題を明確化し、当面の目標に関して適切に自己評価できる					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 生活支援技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	実習Ⅱの目的とねらいの理解	実習Ⅱの目的とねらいについて 実習計画書を作成し実習Ⅱに臨む				
2	介護実習の施設について	介護実習における施設について学ぶ 施設介護実習における施設の種類とサービス内容を理解できる				
3	介護福祉士と介護の理解	高齢者福祉 高齢者への福祉サービスの体系と内容について理解できる				
4	実習Ⅱの目的と課題	対象者の生活の全体像を把握し、説明できる。 アセスメントを体験することで介護福祉士の専門性を深めることができる				
5	実習事前準備	実習事前準備 実習内容の確認と準備物・課題・記録等の最終確認ができる				
6	社会福祉従事者と福祉資格制度	社会福祉の分野で働く専門職員の役割について学ぶ				
7	介護過程について	様々な障害を抱えている介護必要な方の介護過程の展開を学ぶ				
8	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 情報収集・分析・統合の過程を理解する				
9	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 情報収集・分析・統合の過程を理解する				
10	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる まとめた情報から課題の明確化を図る				
11	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる まとめた情報から課題の明確化を図る				
12	実習振り返り・自己評価	アセスメント分析と評価				
13	実習振り返り・自己評価	アセスメントのまとめ				
14	実習反省会・自己評価	アセスメントの発表と自己課題の明確化				
15	まとめ	実習自己評価、振り返りの実施を行う				
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】実習に臨む準備をしましょう						
【本講義に関するの質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 総合演習Ⅳ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 状況に応じた適切な介護をするために、これまで学んできた学習内容をまとめていく。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ・介護過程の展開を行う。 ・対象者の生活や特性を理解し、あらゆる介護場面に応じた介護実践能力を養う。 ・安全に配慮した介護を実践できる能力を養う。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 生活支援技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	実習Ⅱの目的とねらいの理解	実習Ⅱの目的とねらいについて 実習計画書を作成し実習Ⅱに臨む				
2	介護福祉士と実習	高齢者を対象とした介護過程の展開を学ぶ 介護過程におけるアセスメントを理解する				
3	介護福祉士と実習	障害者を対象とした介護過程の展開を学ぶ 介護過程におけるアセスメントを理解する				
4	介護福祉士と私	介護福祉士と自分の関係についてまとめることができる				
5	介護福祉士と私	介護福祉士としての自分の課題と目的が明確化できる				
6	アセスメント	対象者とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 介護計画のアセスメントとニーズの導き				
7	アセスメント	対象者とアセスメント・ケアプランについて、実習計画に基づいて自己評価できる 介護計画のアセスメントとニーズの導き				
8	介護計画	対象者とアセスメント・ケアプランについて、実習計画に基づいて自己評価できる 介護計画の立案				
9	介護計画	ケアプランの実施について内容を報告できる 介護計画の立案				
10	評価と再アセスメント	ケアプランの評価と再アセスメント				
11	実習反省会・自己評価	実習のまとめと自己課題の明確化				
12	介護過程レポートをまとめる	介護過程レポートの作成と作成計画について 実習Ⅱを振り返り、資料を準備する				
13	介護過程レポートをまとめる	介護過程レポートの作成				
14	介護過程レポートの発表	実習報告				
15	実習報告会・自己評価	実習報告				
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】実習に臨む準備をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 実習Ⅱ(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
		窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	250時間
			【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	実習 6
【授業の概要】 様々な生活の場において個別ケアを理解し、介護を必要とする方、そのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する実習とする。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ・施設生活者の生活を支える介護過程についてアセスメントを実施し、生活支援の基礎を学ぶ。 ・福祉専門職としての自己の課題を明確化し、当面の目標に関して適切に自己評価できる。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 生活支援技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	学習の主題	施設介護(12日間)				
2	・様々な生活の場において、介護を必要とする方の生活能力に応じた日常生活支援を提供するために必要な知識、技術を学び理解する。					
3	・介護を必要とする方が、生活する環境について知り、その重要性について理解する。 ・様々な生活の場における多職種の役割と、多職種の連携について理解する。					
4	・実習中、一人の対象者を決定し、対話や日常生活支援等のかかわりを通して得た情報を整理することで、その方の全体像をまとめ、生活ニーズについて理解する。					
5	学習課題					
6	①多くの介護を必要とする方、家族とのかかわりを通して、介護を必要とする方一人ひとりの個別性や生活リズムを理解する。					
7	②介護を必要とする方の日常生活支援の実践を通して、一人ひとりの生活能力に合わせた日常生活支援の方法について理解する。					
8	③様々な生活の場や暮らし方について学び、日常生活支援における環境の重要性について理解する。 ④申し送りや日常生活支援を通して、介護現場における多職種の役割、連携について理解する。					
9	⑤日常生活支援の実践、ケアカンファレンス等への参加から、施設での介護過程の展開を学び、介護を必要とする方がその人らしく生活するための支援について理解する。 ⑥実習期間中、早番、遅番、夜間の実習を通して、介護を必要とする方の一日の生活を理解する。					
10	⑦対象者を1名決定し関わりを深め、得た情報を介護過程レポートにまとめ、その方の全体像を把握し、その方が生活する上でのニーズを明確に理解する。					
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験		評価方法	課題の達成度	20%		
			実習評価	80%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】担当教員より指示があります						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名： 実習Ⅱ(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
		窪木	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	250時間
			【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	実習 6
【授業の概要】 様々な生活の場において個別ケアを理解し、介護を必要とする方、そのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する実習とする。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ・施設生活者の生活を支える介護過程についてアセスメントを実施し、生活支援の基礎を学ぶ。 ・福祉専門職としての自己の課題を明確化し、当面の目標に関して適切に自己評価できる。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 生活支援技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
実習 (20日間)						
1	学習の主題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設運営や施設介護サービスへの理解を深め、チームの一員としての介護福祉士の専門性を理解し説明できる。 ・あらゆる日常生活支援場面において、介護を必要とされる方、一人ひとりの生活能力に合わせ、もてる力を活用、発揮できるように、的確な生活支援技術を選択、提供できる能力を身につける。 ・日常生活支援やケアカンファレンス等を通して、施設における、多職種協働チームアプローチの方法を理解し、チームの一員として日常生活支援を提供できる能力を身につける。 ・介護過程の展開を通して、介護を必要とされる方の生活する上でのニーズを明確に把握し、その人らしく、心地よく生活を送れるように、介護計画を立案・実施・評価できる能力を身につける。 <p>学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①様々な場面の日常生活支援の実践を通し、介護を必要とされる方、一人ひとり生活能力に応じた適切な日常生活支援を選択、提供できる。 ②介護を必要とされる方、個々の日常生活支援の実践や、ケアカンファレンス等への参加をとおして、多職種協働の方法を理解し、チームの一員として日常生活支援に参加できる。 ③多くの介護を必要とされる方とかかわり、実習指導者の助言のもと対象者を決定する。 ④対象者と関わりなどから、収集した情報をアセスメントし、対象者の全体像を把握できる。 ⑤対象者の全体像から、対象者の生活する上でのニーズを明確にとらえ、対象者や実習指導者に相談、助言を受けながら介護計画を立案できる。 ⑥介護計画に基づいて対象者に日常生活の支援を行う。支援した内容、支援中の様子等の経過を記録することができる。 ⑦対象者の介護計画を実施、随時評価・修正を行うことによって、対象者に対しての日常生活支援を振り返り、対象者がその人らしく、心地よく生活できる日常生活支援であったかを考察する。 				
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	評価方法	課題の達成度	20%			
		実習評価	80%			
【教科書】最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】担当教員より指示があります						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名: 介護と医療的ケア

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
富田 きよ子	病院 43年勤務	富田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 看護の臨床経験を生かし介護福祉の現場においては、介護福祉士が医療行為に関わる事が多くなっている中、正常と異常を適切に判断し、医療関係職種との連携ができることが求められている。その知識を持って医療職との協働することを学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 1. 内部障害者の特性に応じた介護の知識や具体的な介護の援助技術の習得、及び医療との具体的な連携方法を理解 2. 内部障害をもった方の生活を理解し、介護福祉士の視点を持って介護過程を展開できる					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 医療的ケアの理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	生活における介護と医療行為について 医療行為範囲外11項目について				
2	日常生活における健康の支援	健康状態の観察(バイタルサインチェックの方法) 体温、脈拍、呼吸、血圧、酸素飽和度の測定方法				
3	緊急時の対応(講義)	緊急時の対応についての理解 介護において予想される緊急時の対応について学ぶ				
4	緊急時の対応(演習)	緊急時の対応についての理解 演習にて、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDの使用方法について理解する				
5	緊急時の対応(演習)	緊急時の対応についての理解 演習にて、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDの使用方法について理解する				
6	日常生活における外傷時の支援	創処置の方法、消毒液の効用 切り傷、擦り創、熱傷の処置の方法				
7	生活における薬の自己管理	薬の自己管理の方法を学ぶ 内服薬・外用薬等処方された薬の自己管理の方法を理解する				
8	生活における薬の自己管理	薬の自己管理の方法を学ぶ 内服薬・外用薬等処方された薬の自己管理の方法を理解する				
9	経管栄養のある方の生活支援	経管栄養のある方の経管栄養の方法と留意点の理解と介護 経管栄養のある方の経管栄養の方法と留意点について				
10	日常生活における爪切りと耳垢の除去の支援	爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解と介護 爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解する				
11	日常生活における爪切りと耳垢の除去の支援	爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解と介護 爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解する(事例を通して演習)				
12	日常生活における排便コントロールの介護	日常生活における排泄コントロールのとれない方の理解と介護 便秘に対する、浣腸の手順と留意点を理解する				
13	人工肛門のある方の生活支援	人工肛門のある方のストマ装着の理解と介護 パウチの排泄物除去の方法について				
14	排尿障害のある方の自立に向けた排泄の介護	排尿障害のある方の自己導尿の方法の理解 自己導尿の手順と留意点を理解する				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 喀痰の吸引

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
富田 きよ子	病院 43年勤務	富田	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義・演習 1
【授業の概要】 看護の臨床経験を生かし、医療行為を必須としながら、自宅あるいは施設で生活している介護を必要とする人は増え続けている。介護を必要とする人の生活支援を担う介護福祉士が生活支援の延長として限定された医療行為の限られた一部を行うことになる。医師および看護職員と連携を図り、適切に医療的ケア(痰の吸引)を実施することが求められる。介護福祉士が担う痰の吸引の基本的学習					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 1. 内部障害者の特性に応じた介護の知識や具体的な介護の援助技術の習得、及び医療との具体的な連携方法を理解 2. 内部障害をもった方の生活を理解し、介護福祉士の視点を持って介護過程を展開できる					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 医療的ケアの理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(1)		痰の貯留を示す状態と喀出するしくみ、および痰の吸引が必要な状態を説明できる 人工呼吸器が必要な状態を説明できる			
2	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(2)		人工呼吸器のしくみと生活支援における留意点、および吸引時の留意点を説明できる 人工呼吸器装着者の呼吸管理に関する医師・看護職員と連携の必要性と連携内容を説明できる			
3	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(3)		子どもの吸引に関する留意点を説明できる 介護を必要とする人・家族の吸引に対する気持ちにそった対応をするために必要なことを説明できる			
4	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(4)		吸引の実施の関するインフォームドコンセントの必要性、説明内容と方法を説明できる 呼吸器系に感染が起きた可能性を示す状態を言え、感染を予防するために実施すべきことを説明できる			
5	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(5)		痰吸引により生じる危険の種類と危険を防止するための留意点が言え、危険防止のために必要な医師・看護職員との連携の仕方を説明できる 緊急を要する状態(症状)を言える			
6	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(6)		急変・事故発生時に実施すべき対応を説明できる 急変・事故発生時の医師・看護職員との連携体制を事前に共有することの重要性と対策の内容を説明できる			
7	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(1)		吸引の必要物品を整え、そのしくみを説明し、清潔に管理できる 必要物品の準備・設置方法と留意点を説明できる			
8	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(2)		吸引前の状態の観察項目と観察方法を説明できる 介護を必要とする人の吸引の準備(体位・プライバシーの保護)と留意点を説明できる			
9	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(3)		吸引実施手順と吸引時の留意点を説明できる 吸引時の介護を必要とする人の状態変化の確認項目と医師・看護職員への報告の必要性を説明できる			
10	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(4)		吸引後の吸引物の確認項目と医師・看護職員への報告の必要性を説明できる 吸引後の片づけの方法と留意点を説明できる			
11	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(5)		痰を出しやすくするケア・体位を整えるケアを説明できる 口腔内のケアを説明できる			
12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(6)		報告・連絡の方法、記録の意義、記録の内容を説明できる まとめ			
13	基本研修(口腔内吸引演習)		シミュレーターを用いて口腔内の吸引を習得する			
14	基本研修(鼻腔内吸引演習)		シミュレーターを用いて鼻腔内の吸引を習得する			
15	基本研修(気管カニューレ内吸引演習)		シミュレーターを用いて気管カニューレ内の吸引を習得する			
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%	
				筆記試験	40%	
【教科書】最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 経管栄養

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
富田 きよ子	病院 43年勤務	富田	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	講義・演習 1
【授業の概要】 看護の臨床経験を生かし医療行為を必須としながら、自宅であるいは施設で生活している介護を必要とする人は増え続けている。介護を必要とする人の生活支援を担う介護福祉士が生活支援の延長として限定された医療行為の限られた一部を行うことになる。医師および看護職員と連携を図り、適切に医療的ケア(経管栄養)を実施することが求められる。介護福祉士が担う経管栄養の基本的学習					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 1. 内部障害者の特性に応じた介護の知識や具体的な介護の援助技術の習得、及び医療との具体的な連携方法を理解 2. 内部障害をもった方の生活を理解し、介護福祉士の視点を持って介護過程を展開できる					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 医療的ケアの理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(1)		経管栄養が必要な状態・経管栄養のしくみと経管栄養の種類を説明できる 栄養摂取と水分摂取の必要性を説明できる			
2	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(2)		経管栄養で注入する内容について説明できる 経管栄養実施上の留意点を説明できる			
3	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(3)		子どもの経管栄養の実際に関する留意点を説明できる 経管栄養を行っている介護を必要とする人の消化器感染の可能性を示す状態(症状)を言える			
4	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(4)		経管栄養を行っている状態で感染予防として実施すべきことを説明できる 口腔ケアの必要性を説明できる			
5	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(5)		介護を必要とする人および家族の気持ちを理解し、経管栄養実施のインフォームドコンセントの必要性と説明内容や方法を説明できる 経管栄養により生じる危険防止の留意点・危険防止のため医師・看護職員との連携のしかたを説明できる			
6	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(6)		ヒヤリハット・アクシデントをレポートできる 緊急を要する状態(症状)を言える			
7	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(7)		急変・事故発生時に実施すべき対応を説明できる 急変・事故発生時の医師・看護職員との連携体制を共有していることの重要性と対策の内容を説明できる			
8	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(1)		経管栄養の必要物品を整え、そのしくみを説明し、清潔に管理できる 必要物品の準備・設置方法と留意点を説明できる			
9	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(2)		経管栄養実施前の状態の観察項目と観察方法を説明できる 介護を必要とする人の経管栄養の準備(体位・プライバシーの保護)と留意点を説明できる			
10	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(3)		経管栄養の実施手順と注入中の留意点を説明できる 経管栄養実施時の介護を必要とする人の状態変化の確認項目と医師・看護職員への報告の必要性を説明できる			
11	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(4)		経管栄養終了後の確認項目と医師・看護職員への報告の必要性を説明できる 経管栄養終了後の片づけの方法と留意点を説明できる			
12	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(5)		消化機能を促進するケア・体位を整えるケアについて説明できる 口腔内や鼻腔のケア・胃瘻(腸瘻)部のケアを説明できる			
13	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(6)		報告・連絡の方法、記録の意義、記録の内容を説明できる まとめ			
14	基本研修(経鼻経管栄養演習)		シミュレーターを用いて経鼻経管栄養を習得する			
15	基本研修(胃瘻または腸瘻演習)		シミュレーターを用いて胃瘻からの経管栄養を習得する			
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%	
				筆記試験	40%	
【教科書】最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 障害の理解

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
薄井 俊介		佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
病院 11年勤務			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	講義・演習 1
【授業の概要】 介護の現場で対象となる利用者の状況を理解する上で、障害を理解することはとても重要である。本講義ではその障害に視点を置き、障害発生のメカニズムとその対策、さらに介護する上で注意すべき点等を理解する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 介護福祉士養成講座にて必須となる「障害の理解」の理解を深め、実際の現場にて困らないことと、国家試験に対する対策として、本講義の内容を理解し、人に伝えることが出来ることを目的とする。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	障害の基礎的理解 障害の概念	障害のある人の暮らしについて理解を深める				
2	障害者福祉の基本理念	障害者の法的定義について理解する 身体・療育・精神障害者福祉手帳制度についてどのようなものか答える事が出来る				
3	障害のある人の生活の理解 I 視覚障害のある人の生活	聴覚・言語障害とはどのようなものか理解する 視覚の機能について説明できる				
4	障害のある人の生活の理解 I 聴覚・言語障害のある人の生活	視覚障害を引き起こす疾患について説明できる				
5	障害のある人の生活の理解 I 肢体不自由のある人の生活	肢体不自由の原因や代表的な障害の障害像について理解する 本人を主体とした介護をするために必要な考え方について学ぶ				
6	障害のある人の生活の理解 I 内部障害のある人の生活	内部障害とは何か理解する 各々の疾患につてどのような介護があるべきか理解する				
7	障害のある人の生活の理解 II 知的障害のある人の生活	知的障害のある人の地域生活と介護による支援との関係を理解する 知的障害を有する方々との接し方について理解を深める				
8	障害のある人の生活の理解 II 精神障害のある人の生活	精神疾患について理解を深める 身体変調と生命の危機について理解を深める				
9	障害のある人の生活の理解 II 高次脳障害のある人の生活	高次脳機能障害とは何か理解を深める 高次脳機能障害を有する患者さんとの接し方について理解を深める				
10	障害のある人の生活の理解 II 発達障害のある人の生活	発達障害の特性を理解する 発達障害のある人の生活と適切な介護について理解を深める				
11	障害のある人の生活の理解 II 重度心身障害のある人の生活	重度心身障害の歴史と定義を理解する 重度心身障害に対する生活特性と介護のポイントを理解する				
12	障害のある人の生活の理解 II 難病のある人の生活	運動神経系の難病と、内臓・皮膚・血液系の難病各々の特徴を理解する				
13	障害のある人に対する介護	自立に向けた介護の手段について理解を深める				
14	家族支援・連携と協働	家族・他職種と連携し、患者さんをサポートしていく理由について理解する				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関するの質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 障害者の心理

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
羽川 孝幸	病院 7年勤務	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 1	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 介護専門職者として、障害者の心理と行動に関する実態と様々なケアにおける心理的援助について概説する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 障害児者の発達や行動を心理学の視点から理解すること。障害児者を取り巻く社会や家族との関係性における心理的援助のあり方について学ぶ。障害児者の地域生活支援や家族支援へのアプローチについて学ぶ。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	障害者とは		障害と心理的影響について			
2	障害とは		ICIDHとICFについて			
3	障害の種類とその程度		身体障害、知的障害、精神障害とそれぞれの特徴			
4	行動系機能障害		感覚系、中枢系、運動系機能障害の特徴と心理的支援			
5	コミュニケーション障害		言語、聴覚、視覚障害の特徴と心理的支援の方法			
6	乳幼児期の発達と早期教育		早期療育と家族支援について			
7	学齢期における発達支援と家族		学校や施設での心理教育から見た発達支援について			
8	障害者と思春期		思春期における精神的変化			
9	障害者と思春期		思春期と性の問題について			
10	障害者と青年期		社会参加や就労支援を目指した心理的援助			
11	肢体不自由児者の心理的支援		事例検討を中心に			
12	知的障害者への心のケア		事例検討を中心に			
13	自閉症者へのケア		事例検討を中心に			
14	入所・通所施設でのケアプログラム		プログラム作成の演習			
15	まとめ					
期末試験	評価方法		授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 心理学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2	
松本 貴智		一般	窪木	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
				【曜日・コマ】	金 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 心理学とは何か？どのような学問なのか？ということから講義を開始し、性格や発達などに関する心理学的理論について解説していく。また、日常生活やリハビリテーションの現場において、役立てられるような心理学的理論について考えていく。授業は講義形式と共に適宜グループワークを実施していく。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 心理学を学習することにより、日常生活や将来の仕事に役立てられるようなヒントを獲得し、仕事や生活がしやすくなるコツを学ぶことが目標。また、グループワークで各個人が積極的に参加することが求められる。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション		①心理学講義の今後の予定について ②心理学の概論・歴史				
2	パーソナリティ心理学		①性格とは ②性格の成り立ち ③類型論・特性論 ④グループワーク				
3	パーソナリティ心理学		①認知スタイル ②いろいろな性格理論 ③グループワーク				
4	集団・社会心理学		①社会心理学について ②同調行動・群集心理 ③社会的促進 ④ステレオタイプ ⑤グループワーク				
5	集団・社会心理学		①認知的不協和 ②官能評価 ③リーダーシップ ④囚人のジレンマ ⑤グループワーク				
6	発達心理学		①発達心理学について ②胎児の感覚 ③愛着理論 ④発達課題				
7	発達心理学		①アイデンティティ ②サクセスフルエイジング ③グループワーク				
8	認知・学習・記憶の心理学		①認知について ②錯覚 ③学習・条件付けについて				
9	認知・学習・記憶の心理学		①記憶について ②グループワーク				
10	精神疾患とストレス		①臨床心理学について ②精神的ストレスと対処法 ②精神医学的疾患について				
11	精神疾患とストレス		①心理検査 ②心理療法 ③グループワーク				
12	介護福祉における心理学を考える		①介護福祉の現場で応用されている心理学理論について				
13	介護福祉における心理学を考える		①介護福祉の現場で応用されている心理学理論について ②グループワーク				
14	総まとめ		①これまでの講義の振り返り				
15	総まとめ						
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%		
				筆記試験	40%		
【教科書】史上最強カラー図解 プロが教える心理学のすべてがわかる本							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名: からだの構造と機能Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
富田 きよ子	病院 43年勤務	富田	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 介護実践の根拠となる人体の構造や機能を学び対象となる人の健康状態や障害の状況を理解して介護を行うための基礎知識を養う					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 1.人体の諸器官の構造と機能を理解し、その主な役割を説明できる 2.こころとからだのしくみを排泄・睡眠・エンドオブライフ等を日常生活と関連させることが出来る					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	排泄に関連したしくみ		大腸の構造, 直腸と肛門, 腎臓, 膀胱について学ぶ			
2			排泄のしくみ, 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響について学ぶ			
3			変化の気づきと対応について学ぶ			
4	清潔に関連したしくみ		皮膚の構造, 清潔の意義を理解する			
5			心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する			
6			変化の気づきと対応について学ぶ			
7	睡眠に関連したしくみ		睡眠の経過と睡眠パターン, 睡眠と覚醒の機構について理解する			
8			心身機能低下が睡眠に及ぼす影響について理解する			
9			変化の気づきと対応について学ぶ			
10	人生の最終段階のケアに関連したしくみ		死を理解する 生の一部としてのエンドオブライフの考え方について学ぶ			
11			終末期から「死」までの変化と特徴, 医療職との連携ポイント			
12			家族の死を受容する段階と支援について学ぶ			
13	ストレスに対処するしくみ		内部環境の恒常性とその乱れ, ストレス時の心身の変化について理解する			
14	つながり		生殖器と受精, 出産と赤ちゃん, 乳房の構造と働きについて理解する			
15	まとめ					
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%	
				筆記試験	40%	
【教科書】最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ、15 医療的ケア						
【参考書】震災絵日記(ポプラ社)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 疾病論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
杉本 淳	一般	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 環境衛生の改善、生活習慣の変化にともない疾病構造も変化している。生活習慣病を核に疾病構造を理解し、介護を必要とする人の健康問題理解を深めると共に、学生自身の健康管理・健康習慣を促す。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ・生活習慣病及び感染症を正しく理解する。 ・疾病の成り立ちを理解し、疾病による生活の支障を考えることができる。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	からだの成長と老化		からだの発達成長と老化 加齢による身体機能の変化			
2	感染症		感染症法・主な感染症・日和見感染・施設内感染			
3	消化器疾患		胃・十二指腸潰瘍、ウイルス性肝炎、肝硬変 介護福祉士が担う感染防止の役割を理解する			
4	内分泌疾患		甲状腺機能亢進症			
5	難病		難病の現状と対策 潰瘍性大腸炎・SLE・ALS・ベーチェット病			
6	障害者(児)医療		障害者医療の特性			
7	生活習慣病		生活習慣病とは 健康問題と健康対策			
8	生活習慣病		循環器疾患			
9	生活習慣病		糖尿病			
10	生活習慣病		高脂血症			
11	骨・筋肉・神経系疾患		骨・関節の疾患 神経疾患・筋肉の疾患			
12	腎臓・泌尿器系疾患		尿路感染症・尿失禁・腎不全と人工透析			
13	リハビリテーション医療		リハビリテーション医療の基礎技術 専門職種			
14	在宅医療の現状		在宅医療の実際と連携 救急医療			
15	まとめ					
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%	
				筆記試験	40%	
【教科書】医学一般 最新 介護福祉全書 別巻1						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】担当教員より指示があります						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 地域福祉論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
佐藤 篤	有料老人ホーム 3年勤務	佐藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 地域福祉の基盤となる地域社会についてふれ、①地域福祉の思想・概念(地域社会の構造変化)②在宅福祉サービス③地域福祉のマンパワー④地域福祉組織化論を学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 地域福祉の対象は、地域社会に生活する人である。身近な地域の問題だけではなく、多種多様な地域の特徴及び地域の福祉問題解決を図ることのできる地域づくり、人間関係づくりについて学ぶ。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	現代社会と地域福祉	オリエンテーション 地域福祉概念の変化				
2	現代社会と地域福祉	地域福祉が目指す福祉コミュニティとは 地域福祉が重視される社会的背景				
3	地域福祉の内容①	生活に必要なサービスとは 福祉サービスの内容と種類				
4	地域福祉の内容②	生活に必要なサービスとは 社会サービスと地域ケアサービス				
5	地域福祉の内容③	生活に必要なサービスとは 地域福祉のマンパワー、ボランティアとNPO				
6	コミュニティソーシャルワーク	自立生活の考えと支援のあり方について 自立生活の考え方				
7	地域福祉の主体形成①	福祉コミュニティの形成について 福祉コミュニティの考え方、福祉コミュニティ形成とは				
8	地域福祉の主体形成②	地域福祉計画について 地域福祉計画策定の視点と方法				
9	地域福祉の主体形成③	住民のエンパワメントについて 福祉教育の考え方と推進方法				
10	地域福祉の主体形成④	権利擁護事業について 成年後見制度について				
11	地域福祉の主体形成⑤	当事者の組織化と自立生活支援について 地域包括ケアとネットワーク				
12	地域福祉の推進機関①	地域福祉サービスを供給・推進する組織・団体について 社会福祉協議会・地域包括支援センター				
13	地域福祉の推進機関②	地域福祉サービスを供給・推進する組織・団体について 民生委員・児童委員				
14	地域福祉推進の課題と展望	福祉社会づくりとは				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】担当教員より指示があります						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 社会福祉援助技術演習

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
佐藤 篤	有料老人ホーム 3年勤務	佐藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 利用者への「尊厳」を基盤とし、対人援助職として必要なコミュニケーション能力や面接の技法、さらに相談援助の過程をロールプレイや事例検討を通して学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①介護従事者としての職業倫理を身に付けることができる。 ②利用者とのよりよい援助関係を形成するために必要な基本的態度や知識を身に付けることができる。 ③援助者としての資質向上を目指し、習得した技術を実践の場で活用することができる。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	社会福祉援助技術の目的と意義	援助技術の基本的考え方 「日本介護福祉士会倫理綱領」から考え・学ぶ				
2	援助関係の構築(基礎編①)	援助関係形成の基盤となるもの 「自己理解」「他者理解」「自己覚知」「環境の理解」を考え・学ぶ				
3	援助関係の構築(基礎編②)	援助関係形成における援助者の基本的態度 「バイステックの7原則」から援助関係形成を考え・学ぶ				
4	援助関係の構築(応用編①)	コミュニケーション技術の習得 「受容」「傾聴」「共感」と「コミュニケーションの特性」を考え・学ぶ				
5	援助関係の構築(応用編②)	基本的な面接技術の習得 ロールプレイを通して面接の基本的なスキルを体験し・学ぶ				
6	相談援助の理論	相談援助の視点となるもの 課題解決の方法としてのアプローチとモデルを学ぶ				
7	相談援助の方法	相談援助の展開過程 相談援助のプロセスと各段階での注意点を学ぶ				
8	相談援助における社会資源と連携	社会資源の活用とネットワーキング 社会資源の活用と多職種・多機関との連携の重要性を学ぶ				
9	相談援助の実際(事例研究①)	相談援助と児童 事例を通して援助の方法を検討する				
10	相談援助の実際(事例研究②)	相談援助と高齢者 事例を通して援助の方法を検討する				
11	相談援助の実際(事例研究③)	相談援助と障害者 事例を通して援助の方法を検討する				
12	相談援助の実際(事例研究④)	相談援助と人権擁護 事例を通して援助の方法を検討する				
13	相談援助と利用者の保護	個人情報保護と苦情解決 個人情報保護法と苦情解決の対処法を学ぶ				
14	援助者の燃え尽き症候群	援助者における燃え尽き症候群(バーンアウト)の防止 スーパービジョンとコンサルテーションの重要性を学ぶ				
15	演習のまとめ	学習成果の振り返り ポイントを整理する				
期末試験		評価方法	筆記試験	60%		
			課題の達成度	40%		
【教科書】必要に応じ資料配布						
【参考書】必要に応じ紹介						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 福祉事務所運営論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
佐藤 篤	有料老人ホーム 3年勤務	佐藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 福祉関係に関わる福祉事務所の役割を理解し、さらに社会福祉主事をはじめとする専門職員の専門性や倫理を理解する。また、保健福祉の動向によりこれからの福祉事務所運営の課題について理解を深め、自立支援に向けた必要性とその方法について学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①福祉事務所の法的な性格と機能を理解する。 ②福祉事務所の組織を理解し、社会福祉主事の業務内容や他職種との連携について理解する。 ③福祉事務所と関係機関との連携について理解する。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	福祉事務所の運営	社会福祉主事制度創設 福祉事務所運営指針				
2	福祉事務所の成立と歴史的展開	地方分権一括法 福祉関連法				
3	福祉事務所の業務と組織	福祉事務所の機能 査察指導員の役割				
4	福祉事務所と法制度	社会福祉法 社会福祉関係と規定				
5	福祉事務所と関係社会資源	現代社会の現状と福祉事務所の運営 市町村との連携				
6	福祉事務所と関係機関	児童相談所、更生相談所、保健所等との連携 民生委員との連携				
7	福祉事務所の専門職員とその役割	面接員と地区担当委員の役割 公務員倫理と職業的倫理				
8	社会福祉主事の専門性と倫理	社会福祉主事の専門性 福祉専門職の倫理				
9	社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術	社会福祉主事の業務 社会福祉援助技術の展開				
10	福祉事務所と自立支援	自立支援に向けた展開 必要性和実施方法				
11	査察指導の意義と方法	査察指導の意義 必要性和実施方法				
12	現任訓練の意義と方法	現任訓練の意義 必要性和実施方法				
13	福祉事務所をめぐる動向	保健と福祉の統合 福祉計画との関係				
14	福祉事務所の運営をめぐる課題	地方分権と規制改革 今後の福祉事務所のあり方				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】必要に応じ資料配布						
【参考書】必要に応じ紹介						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 社会福祉施設経営論(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
佐藤 篤	有料老人ホーム 3年勤務	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	水 3・4	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 社会福祉を取り巻く様々な変化による社会福祉施設、社会福祉法人経営管理における課題を明確化する。さらに施設利用者の生活の質を高めるために提供される福祉サービスの必要性と方法について理解を深める。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①社会福祉施設の体系及び制度の概要や社会福祉施設の役割・機能について理解する。 ②社会福祉施設における福祉サービスの理念を理解する。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	社会福祉施設の沿革、概況及び役割・理念		社会福祉施設の沿革 社会福祉士施設の概況と役割			
2	社会福祉施設の体系と制度		社会福祉施設の体系 社会福祉施設の運営費			
3	社会福祉法人の経営		社会福祉施設の経営管理 福祉サービスとは何か			
4	社会福祉法人の役割		社会福祉法人設立の背景 公私の役割分担			
5	社会福祉施設の経営管理		経営論と経営指標 社会福祉施設のリスクマネジメント			
6	利用者のニーズとサービス管理		施設利用者の現状 生活の質と自立支援			
7	施設サービスの基本		社会福祉施設のサービス管理 施設サービスの計画			
8	援助計画と援助活動の評価		ケース会議の設定と必要性 サービス計画の立案と記録			
9	社会福祉施設の業務管理		業務方針と計画 日常の業務運営			
10	社会福祉施設の組織管理		組織の役割 組織管理の原則			
11	職員組織の考え方と業務分担		組織化の原則と業務分担 チームワークとリーダーシップ			
12	行政サービスと措置費		行政が対象とする社会福祉施設の範囲 措置費と利用制度			
13	福祉関係法と社会福祉施設運営		介護保険方式と契約方式 障害者自立支援制度と運営			
14	地域社会における施設の役割①		社会福祉施設の設置主体 施設の社会的役割			
15	地域社会における施設の役割②		施設サービス・在宅サービス統合の地域社会 住民参加型の施設			
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%	
				筆記試験	40%	
【教科書】必要に応じ資料配布						
【参考書】必要に応じ紹介						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 社会福祉施設経営論(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
佐藤 篤	有料老人ホーム 3年勤務	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	水 3・4	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 社会福祉を取り巻く様々な変化による社会福祉施設、社会福祉法人経営管理における課題を明確化する。さらに施設利用者の生活の質を高めるために提供される福祉サービスの必要性と方法について理解を深める。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①社会福祉施設の体系及び制度の概要や社会福祉施設の役割・機能について理解する。 ②社会福祉施設における福祉サービスの理念を理解する。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
16	在宅福祉サービスの推進	福祉施設が担う在宅福祉サービス 在宅サービスの実態				
17	施設における福祉教育活動	福祉活動拠点としての施設 生涯学習とボランティア活動				
18	施設におけるボランティア活動	ボランティア活動の実際 福祉後継者の育成				
19	社会福祉施設における人事管理	人事管理とは何か 人事考課制度				
20	社会福祉施設における労務管理①	労働条件管理と労使関係 労働基準法と労務管理				
21	社会福祉施設における労務管理②	安全衛生管理 福利厚生				
22	社会福祉施設における財務管理①	社会福祉法人会計基準の概要 予算と決算				
23	社会福祉施設における財務管理②	資金収支計算書と事業活動収支計算書 貸借対照表と財産目録・原価償却				
24	社会福祉施設の建物	社会福祉施設の建設の原則 新たな施設づくりの展開				
25	社会福祉施設の設備・環境	建築から社会福祉施設の動向と問題点 社会福祉施設建設のあり方				
26	社会福祉施設における人材育成	人材育成の意義と内容 職場研修の考え方 OJT SDS				
27	職場研修の方法	研修管理サイクル 研修計画作成 職場研修の基本				
28	社会福祉事業従事者の動向	社会福祉事業従事者の動向 社会福祉専門職の役割と経緯				
29	社会福祉従事者の確保対策	福祉人材確保法制定の考え方 社会福祉関係法と社会福祉事業従事者				
30	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】必要に応じ資料配布						
【参考書】必要に応じ紹介						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 社会福祉現場実習

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
		佐藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	90時間
			【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	実習 2
【授業の概要】 主として相談援助業務の役割を学ぶ場として位置づけ、社会福祉の専門職としての職業倫理を身に付けることとし、福祉事務所・社会福祉協議会・社会福祉施設でそれぞれ実習を行う。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 各実習後の振り返りを行うとし、実習終了後には報告会を実施する。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	学習の主題	実習(各4日間 計12日間)				
2		社会福祉施設・機関での現場実習の意義を理解し、実習施設に応じた事前の準備や心構えを習得				
3		することで現場実習を実効性のあるものとするを目的とする。				
4	学習の課題					
5		①実習指導者からの指導により社会福祉主事としての役割を理解する。				
6		②各実習先の対象者とその周囲の環境その方個人の生活課題や援助の実際を学び援助技術を身に付ける。				
7		③福祉団体・関係機関・地域の方々との基本的な連携方法を学び、円滑な福祉援助の進め方や人間関係の形成を理解する。				
8						
9		④自己評価を行い今後の課題を明確化します。				
10		⑤実習の振り返りを行い学んだこと、気づいたことをまとめます。				
11		⑥互いに実習報告を行う機会を作り、お互いの学びを共有します。				
12						
13						
14						
15						
期末試験		評価方法	課題の達成度	40%		
			実習評価	60%		
【教科書】必要に応じ資料配布						
【参考書】必要に応じ紹介						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】実習に臨む準備をしましょう						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名： 社会福祉現場実習指導(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
佐藤 篤	有料老人ホーム 3年勤務	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	木 1・2	【授業形態・単位】	演習・実習 2
【授業の概要】 実習体験をととして社会福祉の知識、理論を検証する。さらに、社会福祉専門職としての分野、領域を知ることにより社会福祉の専門職への自覚を高める。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①現場実習の意義について理解する。 ②現場実習を通して知識・技術等を具体的かつ实际的に理解する。 ③福祉専門職としての自覚を促し、専門職として求める資質を理解できる。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	社会福祉現場実習の意義と目的	社会福祉援助の特性 社会福祉援助の基本的視点				
2	社会福祉方法と形態	社会福祉実習の方法 実習現場からの期待				
3	実習機関の現状と課題	実習機関の現状 実習生としての動機づけ				
4	福祉実習と援助技術	対人援助とコミュニケーション 障害に応じたケアの実際				
5	個別処遇①	初期面接の留意点 情報の収集				
6	個別処遇②	評価と確認 処遇計画の設定				
7	グループワークの方法	グループワークの目的 グループワークの原則				
8	記録の書き方	記録の意味と必要性 記録されるもの、記録されないもの				
9	スーパービジョン①	スーパービジョンとは スーパービジョンの機能				
10	スーパービジョン②	実習生に対するスーパービジョン スーパービジョンでの人間関係				
11	実習計画の作成と検討	実習の自己評価 実習目的、方法の明確化				
12	実習課題の評価	課題達成評価の意味 評価の方法				
13	実習準備①	実習施設設定の留意点 社会福祉主事の専門性と実習				
14	実習準備②	実習に関わる書類 実習記録と日誌				
15	実習準備③	実習中の事故 実習中の健康管理				
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】必要に応じ資料配布						
【参考書】必要に応じ紹介						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 社会福祉現場実習指導(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
佐藤 篤	有料老人ホーム 3年勤務	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	木 1・2	【授業形態・単位】	演習・実習 2
【授業の概要】 実習体験をとおして社会福祉の知識、理論を検証する。さらに、社会福祉専門職としての分野、領域を知ることにより社会福祉の専門職への自覚を高める。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①現場実習の意義について理解する。 ②現場実習を通して知識・技術等を具体的かつ実際に理解する。 ③福祉専門職としての自覚を促し、専門職として求める資質を理解できる。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
16	実習準備④	実習生の基本的態度				
17	実習準備⑤	専門職倫理				
18	実習レポートの作成①	実習レポートの意味 実習日誌の活用				
19	実習レポートの作成②	実習後の課題の明確化				
20	実習課題の評価	実習課題達成度の確認 実習評価と新たな課題				
21	実習報告会①	実習報告会の目的 実習報告会の進め方				
22	実習報告会②	実習報告と自己評価				
23	実習報告会③	実習の評価				
24	実習施設との連携	実習後の実習施設との関わり 専門職としての関わり				
25	グループ・スーパービジョン①	インシデントを用いたスーパービジョン				
26	グループ・スーパービジョン②	体験をわかち合うスーパービジョン				
27	グループ・スーパービジョン③	やりとりの再構成 プロセスレコードを用いた学び				
28	専門職としての倫理	実習施設における専門職の倫理 指導者、利用者からの学び				
29	協働と援助	福祉実践者としてのチームワーク 職種間におけるネットワーク				
30	まとめ	授業を振り返り、社会福祉主事の役割を理解する				
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】必要に応じ資料配布						
【参考書】必要に応じ紹介						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	